

## 資質を向上させるための3つの視点からの取り組み

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻 公開日: 2013-04-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 益川, 弘如 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/7299">http://hdl.handle.net/10297/7299</a>

## 資質を向上させるための3つの視点からの取り組み

静岡大学教職大学院 益川弘如

富士市と静岡大学との連携事業を通して、互恵的に小中学校教員の資質向上に取り組んできた。小中学校教員が同僚と共に継続的に授業実践力の資質を向上させ続けるためには、授業実践経験を日々努力して積み上げるだけでは限界があり、いくつかの仕掛けが必要である。

日々の積み上げを価値のある知識に再構築させるためには、まず、日々の試行錯誤の中で蓄積してきた経験を、最新の教授学習理論や知見と照らし合わせて、自分なりに整理させることが必要である。大学教員の専門性という強みを生かし、最新の理論や知見を提供し、教師らが経験と関連付ける活動を支援することが、概念的な枠組みを持たせることに繋がり、将来新規の場面で授業を考える際の裏付けとして頼りになるものになる。

2点目は、自己の経験の蓄積に留まらず、他者と共に様々な授業方略を共有、比較することで幅広く授業技術を学ぶことである。学校内に留まらず、同中学校区内の同僚らや教職大学院生らと共に校内研修を実施することで、多様な視点から授業・単元展開や子どもたちの学習過程を知ることができ、レパトリの幅を広げていくことができる。

最後に3点目として、そのような最新の教授学習理論と自己の経験と結びつけたり、校内研修に参加して相互に学びあう活動を繰り返す中で、そのような研修活動が自己の授業実践力の資質向上に欠かせないという認識を高めることである。継続的に同僚と共に資質向上に取り組む必要性を理解して取り組むことが、質の高い実践力向上に結びつくであろう。

以上、「実践力を整理する知識」、「実践力を磨く知識」、「実践力を生み出す知識」の3種の知識を深める活動を支援してきたが、連携事業によって成果が表れてきていると感じている。

<実践力を整理する知識の獲得支援>

夏季公開講座・校内研修での大学教員による指導講評等

<実践力を磨く知識の獲得支援>

小中学校と教職大学院の協働校内研修(小中学校側の授業研究・教職大学院側の提案授業)

<実践力を生み出す知識の獲得支援>

夏期公開講座や協働校内研修を繰り返す中での研修の重要性の認識向上

